

## 第3回ブックパーティー



11月10日（金）、読書週間の最終日に第3回ブックパーティーを実施しました。今回もおススメ本の紹介を行いました。今回は一年生中心の発表となりましたが、高校入学以来の読書経験が十二分に発揮されており、充実した発表になっていました。

発表後は朗読会を行いました。対象図書は重松清さんの短編「セッチャン」。重松さんは中高生を中心に人気が高い作家で、近年は中学校の教科書にも作品が再録されています。「セッチャン」は、周囲との軋轢に苦しむ女の子がもう一人の自分を作り出し、自分のことをその「セッチャン」に仮託して肉親に語っていました。自身の悩みや苦しみを語りづらい青少年の姿を描き出した点は実に巧みで、参加者たちは真剣に朗読に聞き入っていました。

- ・「セッチャン」はきっと、両親に本当のことを言えない加奈子の心が生み出したのだと私は思いました。本当はもっと早く気づいてほしかったと思います。
- ・加奈子は家で居場所を求めているかもしれない、と原先生が言った時、加奈子の今までの言動はそういうことだったんだと納得がきました。それと同時に、もっと親を信じていれば、本当のことを言えていたのかなと、少し悲しくなりました。
- ・転校生のことを自分のように言っている加奈子。途中から気づいていたはずなのに、苦しめないように見守ろうとするのは親の優しさだと思った。
- ・流し雛という半ば迷信のようなものでも、少しでも娘がよくなれば、娘の不幸をなんとかしてやれないか、という親の優しさをそこに感じました。

朗読後には上記のような感想が寄せられ、充実した朗読会になりました。これで今年度のブックパーティーは全て終了しました。次年度も図書館活性化のための取り組みを続けていきます。